

経営比較分析表（平成29年度決算）

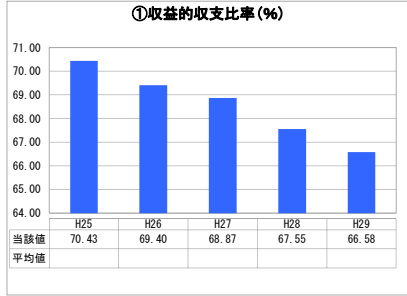
石川県 志賀町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	28.04	102.79	1,620

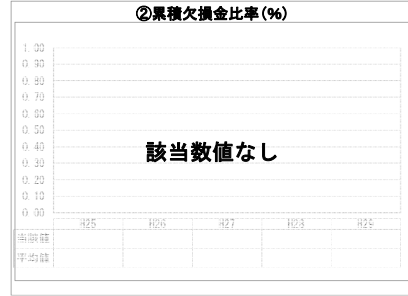
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,910	246.76	84.74
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,811	5.46	1,064.29

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



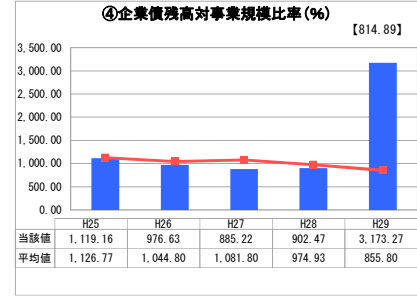
「単年度の収支」



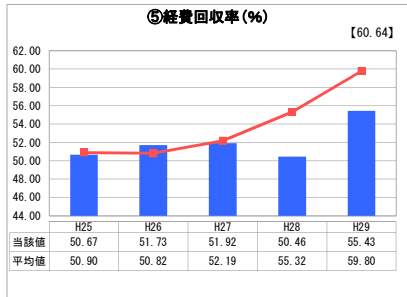
「累積欠損」



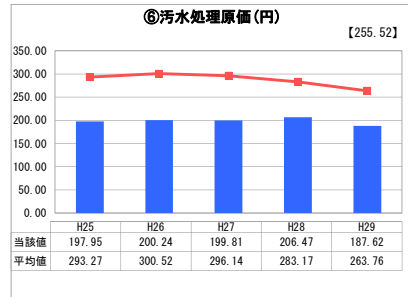
「支払能力」



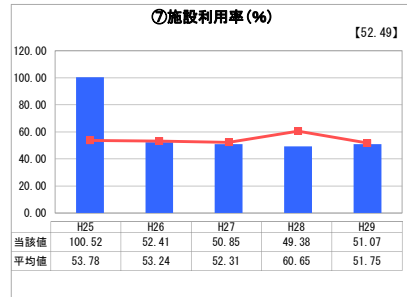
「債務残高」



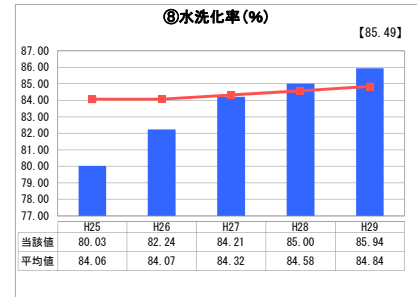
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

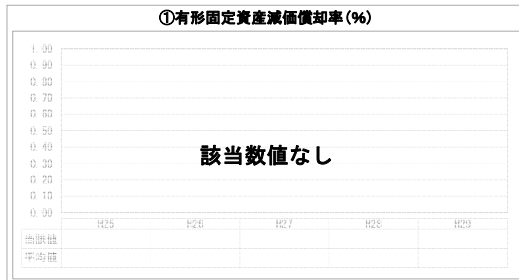


「施設の効率性」

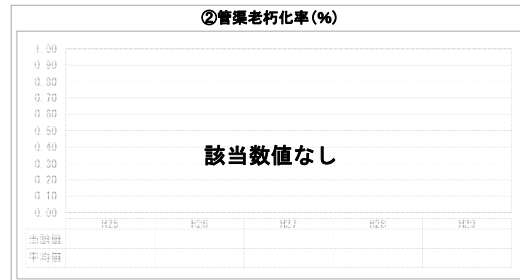


「使用料対象の捕捉」

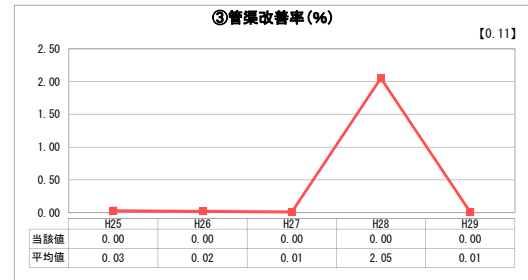
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率
現状数値は年々下降傾向にある。これは料金収入の伸び悩みと企業債償還額が増加していくことが起因している。平成30年度より不均一料金の統一がなされたため比率は多少改善すると思われる。
- ④企業債残高対事業規模比率
正しい数値は、358.62となる。管路整備が完了していることから、多額の地方債発行が必要ないことにより、比較的順調に地方債償還が進んでいる。
- ⑤経費回収率
数値においては、類似団体平均値に近い数値を維持してきたが、平均値との乖離が生じたため、さらなる汚水処理費の圧縮を目指し経営の向上につなげたい。
- ⑥汚水処理原価
接続率を高め有収水量の増加を図りたいが、人口減少による有収水量減のため思うように水量増につながらない。維持管理費のコスト縮減を図る。
- ⑦施設利用率
利用率数値は、ほぼ50%を維持している。今後は経営の効率化のため施設の統廃合を進めていきたい。
- ⑧水洗化率
類似団体平均には達しているが、残る未接続世帯についても早期の接続を促す。

2. 老朽化の状況について

町内16の処理場は、供用開始後20年以上を経過した施設も多く、特に設備機械は耐用年数を経過しているものも多い。町では平成24年度策定の最適整備構想計画に準じて、処理施設の改修を行っている。また、併せて施設の統廃合も考慮し順次改修を進めている。

全体総括

本事業は、町内に16処理区が整備済であるが、事業の性格上、中山間部の集落が大部分のため高齢化・人口減少による経営の悪化が危惧されている。平成30年度より不均一であった使用料が統一されたため多少の料金収入の増加は見込まれるものの、長期的には公共下水道や隣接処理区同士の統廃合を行い維持管理費の削減が課題である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。